

# 注目！がん看護における最新エビデンス

## 乳がん化学療法前後のサプリメント摂取が再発・死亡を増加させるかもしれない

Dietary Supplement Use During Chemotherapy and Survival Outcomes of Patients With Breast Cancer Enrolled in a Cooperative Group Clinical Trial (SWOG S0221). Ambrosone CB, Zirpoli GR, Hutson AD, McCann WE, McCann SE, Barlow WE, Kelly KM, Cannioto R, Sucheston-Campbell LE, Hershman DL, Unger JM, Moore HCF, Stewart JA, Isaacs C, Hobday TJ, Salim M, Hortobagyi GN, Gralow JR, Budd GT, Albain KS. J Clin Oncol. 2019 Dec 19. [Epub ahead of print]

読者の皆様は、サプリメントについてどうお考えでしょうか。サプリメントの有効性を示すエビデンスはあまり存在しないと分かっているものの、スーパーマーケットに並ぶサプリメントのダイエットや老化防止、疲労回復、美容などの華々しい宣伝を見ると、「まあ、悪くはないだろう、ちょっと試してみようか」という衝動に駆られる人も少なくないでしょう。また、乳がん患者には化学療法後の副作用軽減のためにビタミンB<sub>12</sub>（メチコバル）が処方されることもあります。



**宮下光令** 教授  
 東北大学大学院 医学系研究科  
 保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつりのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

### 金澤麻衣子 東北大学病院

がん看護専門看護師／乳がん看護認定看護師

がん・感染症センター都立駒込病院に勤務し、2007年に乳がん看護認定看護師、2009年に千葉大学大学院看護学研究科で乳がん看護認定看護師の教育課程に従事した後、千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程2013年修了。東北大学病院に入職し、緩和ケアセンター所属、2019年がん看護専門看護師資格取得。現在、外来・病棟で横断的に活動している。

今回紹介する研究は、アメリカで行われた腋窩リンパ節転移陽性あるいは腋窩リンパ節転移陰性高リスク乳がんを対象にした化学療法法の二次分析の結果です。本来は、ドキソルビシン、シクロフォスファミド、パクリタキセルの毎週投与と1週間ごとの投与を比較する試験でしたが、参加者の化学療法中におけるサプリメントの摂取状況を調べていたため、サプリメントの効果や副作用について二次的な分析を行いました。分析は年齢、ホルモン受容体やHER2の陽性/陰性、BMI、喫煙、

《表》乳がん患者のサプリメント摂取による分析結果

サプリメントの種類	摂取時期	調整済みハザード比とP値（無再発生存期間）	調整済みハザード比とP値（全生存期間）
抗酸化サプリメント※	化学療法前と化学療法中	1.41 (95% CI 0.98 to 2.04 ; P=0.06)	1.40 (95% CI 0.90 to 2.18 ; P=0.14)
ビタミンB <sub>12</sub>	化学療法前と化学療法中	1.83 (95% CI 1.15 to 2.92 ; P<0.01)	2.04 (95% CI 1.22 to 3.40 ; P<0.01)
鉄剤	化学療法中のみ	1.79 (95% CI 1.20 to 2.67 ; P<0.01)	1.71 (95% CI 1.06 to 2.76, P<0.06)
マルチビタミン、ビタミンD、ビタミンB <sub>6</sub> 、葉酸、カルシウム、オメガ3脂肪酸、グルコサミン、メラトニン、アシドフィルス	化学療法前と化学療法中、もしくはその一方のみ	影響なし	影響なし

※抗酸化サプリメント：ビタミンA、ビタミンC、ビタミンE、カロテノイド、コエンザイムQ10のいずれか

アルコール摂取状況などで調整した解析が行われています。

分析の対象になったのは1,134人で、そのうち251人が再発、181人が死亡していました。主な結果を表に示します。化学療法前と化学療法中にビタミンB<sub>12</sub>を摂取していた人は、再発および生存期間が有意に短くなっており、鉄剤を化学療法中に摂取していた人は再発までの期間が有意に短くなっていました。また、抗酸化サプリメントの摂取も、統計学的に有意ではないものの再発や生存期間に影響する可能性が示唆されました。

日本乳癌学会が作成した『乳癌診療ガイドライン』では、乳がん予防のためにサプリメントを摂取することは推奨されず、抗酸化ビタミンなどが乳がんの発症リスクを上げる可能性も指摘されています<sup>1)</sup>。今回の報告は、前述の3つの抗がん剤の臨床試験という状況

に限られたものであるため、他の抗がん剤の組み合わせにそのまま適用することはできないだけでなく、米国と日本では抗がん剤の投与量や回数も異なっていることに注意しなくてはなりません。また、化学療法前もしくは化学療法中の摂取に関するデータであり、これらのサプリメント摂取が乳がんの発症率を高めたり、化学療法後のサプリメント摂取が再発や生存期間に影響したりするというデータは全くありません。そのため、この結果を基に患者さんの過剰な不安をあおらないことも大切だと思います。まだまだエビデンスが不足している状況ではありますが、少なくとも現時点では、化学療法中におけるこれらのサプリメントの使用は薦められないでしょう。

#### 参考文献

- 1) 日本乳癌学会編：乳癌診療ガイドライン2 疫学・診断編 2018年版，金原出版，2018。